

# 大田原市地域公共交通網形成計画 概要版

## 1. 計画の区域と期間

- ・計画区域は大田原市内全域とします。ただし、市外の拠点へのアクセスに関しては市外も対象とします。
- ・計画期間は5ヶ年間（平成29年度～平成33年度）とします。

## 2. 地域公共交通に係る問題・課題と基本方針

### 2.1 問題・課題

大田原市における地域公共交通の課題は、集約すると次のとおりです。

#### ①通学以外での路線バス利用促進

- ・依然として、バス利用者の大半（約53%※）は通学利用者で、通学時間帯以外の一般市民や来訪者の利用が少ない状況にあります。  
※帰宅目的と無回答を除いた通学目的の割合

#### ②地域の需要に見合った運行形態の見直し

- ・路線バス再編を行ったものの、黒羽地域で運行しているデマンド交通の1人1乗車当たりの運行経費（3,083円）を超える市営バスが4路線存在しています。
- ・黒羽地域で運行しているデマンド交通の収支率（収入÷経費）が約5%と当初から低い状態にあります。

#### ③幹線・支線（フィーダー）相互の乗り換え及び広域の利用促進

- ・フィーダー路線から幹線への乗り換えはほとんどみられません。
- ・那須地域の1市2町（那須塩原市・那須町・那珂川町）における大田原市内バス路線の利用割合を整理すると、那須塩原市民の利用割合は約18%と高い状況にありますが、那須町民は約1%、那珂川町民は約3%と低い状況にあります。

#### ④マイカー依存により進まない、路線バスを守り育てる社会環境の創出

- ・依然として、バスを利用していない市民の割合は約85%と高く、最寄りバス停の運行情報を知っている市民の割合は約13%と低い状況となっています。

#### ⑤今後、車両更新時期を迎える市営バスの計画的な更新

- ・市営バスは11路線を運行していることから、保有車両が21台となっており、今後の車両更新に伴うコストが財政を圧迫します。

### 2.2 基本理念

地域公共交通網を構築する上での基本理念（＝前提）を次のとおり設定します。

## 「くらしの足」と「おでかけの足」を支える公共交通をつくる

#### 「くらしの足」

「くらしの足」は、今住んでいる地域でこれからも安心して生活できる環境を維持するために、地域の需要に応じた効率的で持続可能な公共交通をつくります。

#### 「おでかけの足」

「おでかけの足」は、今住んでいる地域の住民や近隣市町村の来訪者が気軽におでかけができるような公共交通をつくります。

後述する基本方針の実現を目指し、各種事業を実施していきます。

その結果、大田原市総合計画で掲げている将来像「知恵と愛のある 協働互敬のまち おおたわら」を目指します。

## 2.3 基本方針

地域公共交通網の課題解決に向け、以下を本計画の基本方針（＝地域公共交通のあるべき姿）とします。

### 基本方針1 幹線・支線（フィーダー）を明確にした持続可能な公共交通体系の構築

市内公共交通のうち、需要の高い路線を幹線（交通軸）に位置づけ、鉄道駅や主要拠点への接続を重視します。そして、幹線に繋ぐ支線（フィーダー系統）を機能的に整理し、路線毎の役割分担を明確化することで持続可能な公共交通体系の構築を目指します。

### 基本方針2 需要に応じた交通システムの導入による持続可能な公共交通体系の構築

基本方針1にて掲げた公共交通体系だけでは、地域の需要に見合った効率的な交通システムであるかどうかは判断できません。特に地域によって人口分布に偏りが生じている本市においては、市内各地域を市営バスで運行することが効率的な運行であるとは言えません。そのため、地域の需要に見合った効率的な交通システムの導入が望まれます。

交通システムの導入にあたっては既存交通事業者を活用した移動支援、住民主体による輸送などが考えられ、既存デマンド交通を含めて地域の需要に見合った交通システム・方法による持続可能な公共交通体系の構築を目指します。

### 基本方針3 新たな需要の創出に向けた持続可能な公共交通利用促進策の展開

基本方針1や基本方針2にて掲げた事業を市民・来訪者に広く周知し、市民や来訪者の新たな需要を創出するために、路線沿線にある商業施設や観光施設、及び市内開催イベントと連携した公共交通利用促進策を実施します。また、モビリティ・マネジメント<sup>\*</sup>も実施し、移動手段として公共交通や自転車などを「かしく」使う方向へと自発的に転換することを促します。

これらのことにより、新たな需要の創出に向けた持続可能な公共交通利用促進策の展開を実現します。

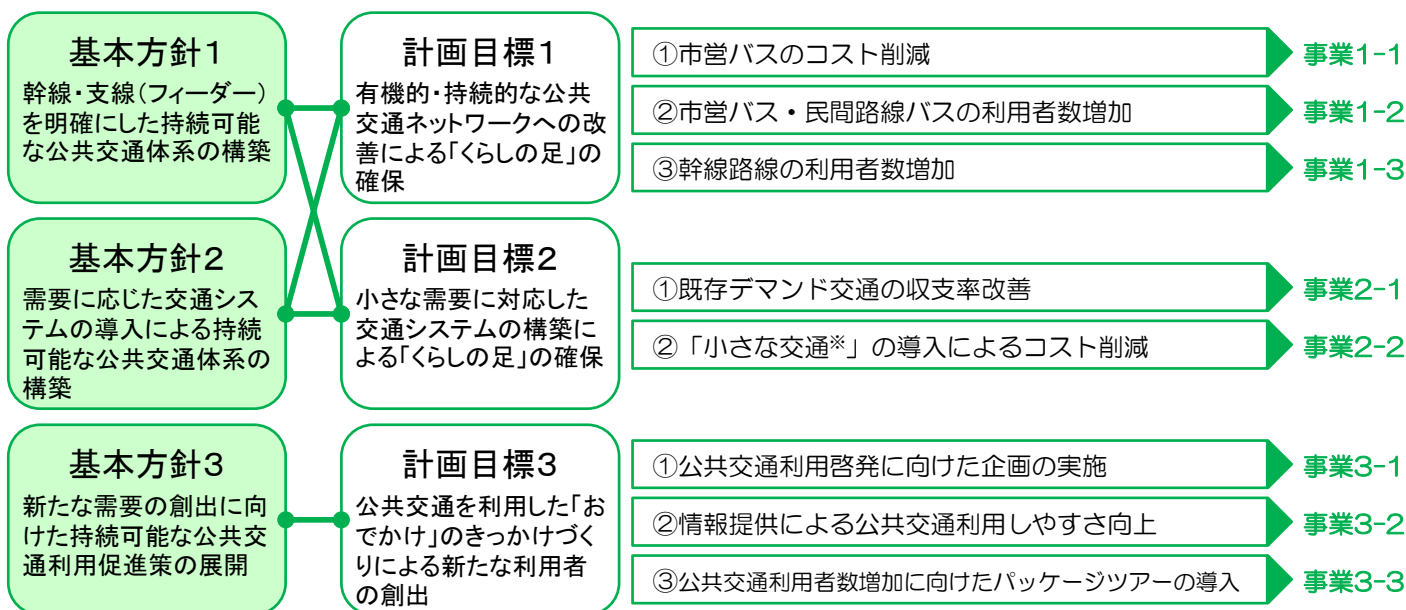
※モビリティ・マネジメント

1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策。

## 3. 計画目標と計画事業

### 3.1 施策体系

基本方針に対し、計画目標（＝それを実現するために計画期間中に達成すべき目標）は次のとおりとします。



※小さな交通

移動需要が少ない地域においては、鉄道やバスといった「大きな交通」では非効率的な運行であるため、デマンド交通やタクシー補助、公共交通空白地有償運送（NPO法人・住民組織が運営主体）などの「小さな交通」の導入が望まれます。

### 3.2 事業概要

計画目標を達成するために実施する具体事業について、概要を以下に示します。

事業 1-1	事業 1-2	事業 1-3
市営バスの車両更新計画の立案・民間バス事業者への移管の検討	市営バス・民間路線バスの共通券発行	近隣市町との連携強化における幹線路線の需要増加
<ul style="list-style-type: none"> <li>市営バスの車両更新計画を立てるとともに、市営バス路線のうち平均乗車密度が高い、「那須塩原駅線」と「雲巖寺線」の2路線を対象に、民間バス事業者への移管を検討していきます。</li> </ul> <p>●民間事業者への移管検討路線図</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東野交通と市営バスの2種類の回数券があります。市民、来訪者ともに利用しづらい・わかりづらい状況にあることから、両者で使用できる共通券を発行し、相互の利用促進・利便性向上を図ります。</li> </ul> <p>●共通乗車券の参考例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>那須地域定住自立圏事業で設定された「幹線路線」と本市の市営バスなどの「地域内路線」との結節点の強化（乗り換え時間の短縮など）を図り、幹線路線の需要増加を目指します。</li> <li>八溝山周辺地域定住自立圏ビジョンに基づく大子町路線との結節点について、須賀川地域や大子町の需要を調査し、新たな対応を模索します。</li> </ul> <p>●結節点強化のイメージ図</p>

事業 2-1	事業 2-2																																				
既存デマンド交通の改善	地域状況に対応した「小さな交通※」の導入																																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド交通の運賃値上げを検討する一方で相乗り割引の導入を検討し、利用者の増加と運賃収入の増加を目指します。</li> </ul> <p>●相乗り割引導入の参考例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>利用方法</b> 事前の利用登録が必要です(電話1本で簡単登録)。 連絡先: 見附市企画調整課 (62-1700 (内線315))</p> <p><b>行き</b></p> <p>1 乗車時間の1時間前までに電話予約をします(時刻表は裏面参照)。</p> <p>予約先 頼みつけタクシー 電話62-1500 (予約時間 午前7時~午後7時)</p> <p>①「会員番号、②氏名、③利用日と利用したい便、④停留所名(出発地、目的地両方)、⑤人数」をお伝えください。 ※予約変更・取り消しも必ずご連絡ください ※片道だけの利用も可能です。 【通常料金】 大人:300円 小学生:150円 未就学児:無料 【乗合割引後】 大人:200円 小学生:100円 ※乗合割引:同じタクシーに2人以上で予約した場合に適用</p> <p>2 タクシーが指定の停留所に迎えに来ます。 停留所の表示はありませんが、指定の場所でお待ちください。 ※詳しい場所、時間は裏面をごらんください。</p> <p>3 目的の指定の停留所で降車します。</p> <p><b>帰り</b></p> <p>4 市街地停留所から地域の停留所までお送りします。 ※帰りも予約が必要です。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな交通の導入検討路線として、1人1乗車当たり運行経費が既存のデマンド交通の1人1乗車当たり運行経費を超えている、「湯津上地域の黒羽・佐良土線」、「佐久山地域の佐久山・野崎駅線、佐久山・親園線」、「野崎地域の佐久山・野崎駅線、野崎方面循環線」の3地域4路線を対象とします。</li> <li>小さな交通の導入にあたっては既存交通事業者を活用した移動支援、住民主体による輸送などが考えられ、地域の状況に対応した交通システムの導入を検討します。</li> </ul> <p>●1人1乗車当たりの運行経費(H27年度)と対象路線</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>路線</th> <th>運行経費(円/人)</th> <th>再編内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>佐久山・親園線</td> <td>1,392</td> <td>小さな交通導入検討路線</td> </tr> <tr> <td>金田方面循環線</td> <td>930</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>野崎方面循環線</td> <td>613</td> <td>小さな交通導入検討路線</td> </tr> <tr> <td>那須塩原駅線</td> <td>224</td> <td>民間事業者への移管検討</td> </tr> <tr> <td>大田原市内循環線</td> <td>359</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>金丸線</td> <td>6,455</td> <td>現状維持(回送活用路線)</td> </tr> <tr> <td>雲巖寺線</td> <td>346</td> <td>民間事業者への移管検討</td> </tr> <tr> <td>須賀川線</td> <td>5,042</td> <td>現状維持(市外結節点検討)</td> </tr> <tr> <td>黒羽・佐良土線</td> <td>3,755</td> <td>小さな交通導入検討路線</td> </tr> <tr> <td>蛭田・湯津上線</td> <td>1,110</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>佐久山・野崎駅線</td> <td>5,607</td> <td>小さな交通導入検討路線</td> </tr> </tbody> </table>	路線	運行経費(円/人)	再編内容	佐久山・親園線	1,392	小さな交通導入検討路線	金田方面循環線	930	現状維持	野崎方面循環線	613	小さな交通導入検討路線	那須塩原駅線	224	民間事業者への移管検討	大田原市内循環線	359	現状維持	金丸線	6,455	現状維持(回送活用路線)	雲巖寺線	346	民間事業者への移管検討	須賀川線	5,042	現状維持(市外結節点検討)	黒羽・佐良土線	3,755	小さな交通導入検討路線	蛭田・湯津上線	1,110	現状維持	佐久山・野崎駅線	5,607	小さな交通導入検討路線
路線	運行経費(円/人)	再編内容																																			
佐久山・親園線	1,392	小さな交通導入検討路線																																			
金田方面循環線	930	現状維持																																			
野崎方面循環線	613	小さな交通導入検討路線																																			
那須塩原駅線	224	民間事業者への移管検討																																			
大田原市内循環線	359	現状維持																																			
金丸線	6,455	現状維持(回送活用路線)																																			
雲巖寺線	346	民間事業者への移管検討																																			
須賀川線	5,042	現状維持(市外結節点検討)																																			
黒羽・佐良土線	3,755	小さな交通導入検討路線																																			
蛭田・湯津上線	1,110	現状維持																																			
佐久山・野崎駅線	5,607	小さな交通導入検討路線																																			

事業 3-1	事業 3-2	事業 3-3
<p>各種利用促進企画等の実施 (市内開催イベントとの連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用のきっかけづくりを行うため、「バススタンプラリー」「小学生による車内音声案内」「車内絵画展」等を企画し、実施します。</li> <li>●バススタンプラリー実施の参考例</li> </ul> 	<p>バスおでかけマップの作成 (中心市街地や沿線施設との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに構築される市内の公共交通網と沿線おでかけ情報などの市内公共交通に関する全ての情報を網羅した公共交通マップやパンフレットを作成し、市民及び来訪者に情報提供を行います。</li> <li>●公共交通マップの参考例</li> </ul> 	<p>公共交通を利用した パッケージツアーの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、本市では観光協会と一緒に「与一くんとめぐる路線バスの旅」を企画、実施しています。更なる公共交通利用者数の増加に向けて、市内の観光施設や商業施設と連携した公共交通を利用したパッケージツアーの導入を実施します。</li> <li>●パッケージツアーの参考例</li> </ul> 

### 3.3 各事業の実施主体とスケジュール

事業	実施主体			実施スケジュール				
	大田原市	交通事業者	住民	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
事業1-1 市営バスの車両更新計画の立案 ・民間バス事業者への移管の検討	○	○		調査・検討				
事業1-2 市営バス・民間路線バスの共通券発行	○	○		検討	順次実施			
事業1-3 近隣市町との連携強化における幹線路線の需要増加	○	○		検討	順次実施			
事業2-1 既存デマンド交通の改善	○	○		検討	順次実施			
事業2-2 地域状況に対応した小さな交通の導入	○	○		検討	順次実施			
事業3-1 各種利用促進企画等の実施 (市内開催イベントとの連携)	○	○	○	検討	順次実施			
事業3-2 バスおでかけマップの作成 (中心市街地や沿線施設との連携)	○	○	○	検討	順次実施			
事業3-3 公共交通を利用したパッケージツアーの導入	○	○	○	検討	順次実施			